

庄原の

# 農家民泊を のぞいてみよう！

「農家民泊」って聞いたことはあるけど・・・??

ホテルでも旅館でもない、その土地の習慣や文化を体験しながら、農家などに宿泊するスタイルです。子どもたちの自然体験教育に加え、まちおこしや定住、生きがいづくりを目的に、都会に住む人に農山村の暮らしを体験してもらう「農家民泊」の取り組みは全国に広がっています。

セミナーでは、現在庄原市内で取り組まれている3つの「農家民泊」の取り組みを紹介します。参加した子どもたちや受け入れ地域にどんな効果をもたらすのか考え、庄原のこれからの「農家民泊」の可能性を探ります。



◇日時 **1月12日(火)**

13:30～16:30 (開場 13:00)

◇場所 **比和自治振興センター**

〒727-0301 庄原市比和町比和 1119-1

◇参加費 **500円** ◇定員 **50名**

(比和の特産お茶とおやつ付)

◇お申込み・お問い合わせ

庄原市自治振興区連合会 事務局 (徳岡)

庄原市中本町1丁目10番1号 (庄原市自治定住課内)

TEL 0824-73-1209 mail: office@shobara-jichi-rengo.org

○参加ご希望の方は1月7日(木)までにお申し込みください

やってみよう！まちづくり実践セミナーは、実際に地域で取り組まれている事例をとりあげ、課題解決に向けて参加者みんなで考えます。これまで、特産品開発(高野)、空き家対策(口和)、組織改革(峰田)、地域福祉(西城)、地域資源活用(帝釈)など……。実際に現地の様子を見学しながら学んでいます。

# <比和>三河内子ども農村交流協議会

三河内地域では7年前から農家民泊体験の受け入れを行っています。庄原市比和町三河内地区は110世帯320人。平成20年に、住民自治組織、三河内地域振興会と庄原市とで結成。農家民泊は地域課題解決の選択肢として始める。受け入れ農家・支援スタッフは25世帯、三河内という名前が地図上から消えてしまわないために、20年後のふるさとをイメージして奮闘中。



## 奥田 順紀 おくだ よしのり 三河内子ども農村交流協議会 事務局長

三河内（みつがいち）地域自治会事務局長、庄原さとやま体験交流協会副会長、庄原市国際交流協会理事&ホストファミリー。28歳の時、赴任先の鳥取県米子市で友人の誘いからまちづくり活動に参画。それをきっかけに企画、運営の楽しさを覚える。海外の赴任を経て33歳の時、比和町の実家に帰郷し、実家の工務店を継ぐ。その後、地元三河内地区の自治振興区（現自治会）の立ち上げに奮闘。平成20年、三河内子ども農村交流協議会を立ち上げ、現在に至る。

## 高野 たかの遊☆学☆隊

高野町において現在29軒の受入農家で民泊活動を展開しています。冬モニターツアーなどを経て、昨年8月に福山市の小学生53名を本格受け入れ。自然体験や農業体験、農家の人とのふれあいを通し、都会では味わえない感動や高野の素晴らしさを伝える活動をしています。



### 藤元 竜二郎

ふじもと  
りゅうじろう

たかの  
遊☆学☆隊 会長

平成13年に庄原市高野町へUターン後、文化行事や雪合戦大会など地元事業に積極的に参加する。平成24年に高野地域未来塾に参加し、着地型観光部会に所属する。その後部会から独立する形で高野地域農村体験交流協議会を立ち上げ、初代会長に就任する。地域と子どもと音楽を愛す39才。

## 西城 うみ・やま・ひと広島バカンス 西城ステイ

「高齢者の生きがい作り」と「地域再発見」を目的に農家民泊に取り組んでいます。今年は6組17名、昨年は4組9名を主に関東・福島から受け入れました。夏でもクーラーを必要としない爽やかな環境、多様性のある自然、西城らしい人情味あふれる素朴な“おもてなし”を大変喜んでいただきました。これまでは試行でしたが、受入農家も20軒に増え、来年度から本格的な受入を始めたいと考えています。



### 上西 みどり

うえにし  
みどり

西城自治振興区  
地域マネージャー

広島市内でコンピューターメーカーに約12年勤務後、農的な暮らしを求めて栃木県那須町に移住。2011年3月、東日本大震災の影響で、実家のある西城町に自主避難。昨年末には、ヤギも家族に加わって、無農薬・無肥料の野菜や田んぼ作りなど、循環型の農を実践中。ただいま振興区で農家民泊を進めるために地域を奔走中！